令和３年度第２回　感染症発生動向調査部会
議事要旨

１　日　時　　令和３年５月１９日（水）　１４：００～

２　場　所　　岐阜大学医学部本館　1階　小会議室（岐阜市柳戸１－１）

３　出席者

委　　員　：馬場　尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長）
大西　秀典（岐阜大学大学院医学系研究科　小児病態学　教授）
澤田　明（岐阜大学医学部附属病院　眼科　臨床准教授）
加藤　達雄（国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長）
石山　俊次（石山泌尿器科皮膚科）

オブザーバー：小山　静代（岐阜市保健所　感染症対策課　感染症対策係長）

事　務　局　：石塚　敏幸（感染症対策推進課 感染症対策第二係長）
山田　涼子（感染症対策推進課 技師）
今尾　幸穂（保健環境研究所 疫学情報部長）
岡　隆史（保健環境研究所 主任専門研究員）

４　議　題　（進行：馬場委員）

（１）前月の感染症発生動向について
（２）検討すべき課題について
（３）情報提供すべき事項
（４）情報提供（月番委員専門分野から）
（５）その他

５　議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

・事務局からの説明は資料のとおり。
・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

〇前年と比較し増加傾向がみられる小児科定点疾患について

RS ウイルス感染症など、前年と比較して増加傾向がみられる感染症がいくつかあり、その背景要因としてどのようなことが考えられるか。例えば、昨年４月は新型コロナウイルス感染症対策のために休校措置が取られるなどして、一時的に小児科定点疾患の罹患者数が減少していたとも考えられる。しかし RS ウイルス感染症については通常の流行期とは異なる時期に増加しており、それだけでは説明できないように思う。

（委員からの意見）
　社会活動がある程度活性化してきていることが要因として考えられるのではないか。一般の診療現場においても、社会活動が活発化してきている印象を受ける。

〇梅毒罹患の背景要因について
　2021 年のデータでは女性の梅毒罹患者数が前年、前々年と比較して減少している。その背景要因としてどのようなことが考えられるか。
（委員からの意見）
　近年若い女性の罹患者数が増加傾向であったため、この傾向が続くのであれば、何らか背景に変化があったと考えられる、新型コロナウイルス感染症の影響により受診控えが起こっている可能性もあり、要因となっているのではないか。

〇E 型肝炎について
（事務局から）
　第 15 週から E 型肝炎の発生報告が続いており、県民に対して同感染症への注意を促したい。そのため効果的に情報が伝えられるよう、ご意見をいただきたい。
（委員からの意見）
　E 型肝炎発生の背景要因がわかればそれを伝えることが重要だと思う。今回の連続発生について何か関連性はあるのか。
（回答）保健所にて調査した結果、野生動物の肉類の摂取や井戸水の飲用は無いとの回答であり、渡航歴も無く、要因と考えられるものは認められませんでした。
（委員からの意見）
　特定の原因が今のところ不明であれば、調理の際の加熱の重要性など、食中毒に対する一般的な注意点について強調した方が良いのではないか。

【情報提供すべき事項】
・昨年と比較し増加傾向がみられる感染症について
・夏に流行する感染症について
・新型コロナウイルスワクチン接種について

【情報提供（月番委員専門分野から）】
・令和 3 年度インフルエンザワクチン製造株の決定について
・百日咳菌抗原定性検査の保険収載について
・新型コロナウイルス感染症の体外診断用医薬品（検査キット）の承認情報について

【その他（感染症対策推進課から）】
・各種ワクチンに関する情報提供